

# ベジセイバー®

■種類名：ペンチオピラド・TPN水和剤

■有効成分：ペンチオピラド ..... 6.4%  
TPN ..... 40.0%

■PRTR法指定物質：TPN [第1種] ..... 40.0%

■登録番号：第23646号(三井化学アグロ登録)

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■登録初年：2015.04.08

■性状：類白色水和性粘稠懸濁液体

■有効年限：4年

■包装：500ml×20本

## 【特長】

- 二つの成分の異なる阻害作用により、SDHI 剤に対する感受性低下が懸念される作物・地域でも高い効果が期待できる。
- 広い病害スペクトラムで新たな防除価値を提供できる。
- 灰色かび病、うどんこ病に対し、高い効果を示す。

## 【適用内容】(2019年2月13日現在)

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ペンチオピラ ドを含む農薬 の総使用回数	TPN を含む農薬の 総使用回数	
キャベツ	べと病 株腐病 菌核病	1000	100~ 300 ℓ/10a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	3回以内	3回以内 (は種又は定植前の 土壌混和は1回以 内、散布及びエアゾ ル剤の噴射は合計 2回以内)	
はくさい	黒斑病 白斑病 白さび病 べと病			収穫 7日前 まで				3回 以内	3回以内 (は種又は定植前の 土壌混和は1回以 内、散布は2回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 つる枯病			3回以内					
すいか	うどんこ病 つる枯病 炭疽病 菌核病			収穫 3日前 まで	5回以内				
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病								
きゅうり	べと病 うどんこ病 灰色かび病 褐斑病 炭疽病 黒星病			収穫前日 まで	3回 以内			10回以内 (土壌灌注は2回以 内、散布及びくん煙 及びエアゾル剤の 噴射は合計8回 以内)	
トマト	疫病 うどんこ病 灰色かび病 葉かび病 すすかび病			2回 以内				6回以内 (土壌灌注は2回以 内、散布及びくん煙 及びエアゾル剤の 噴射は合計4回 以内)	
ミニトマト	斑点病				2回以内				
なす	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 菌核病 黒枯病			収穫前日 まで	3回 以内			4回以内	
ピーマン	うどんこ病 灰色かび病 炭疽病 黒枯病			3回以内					
たまねぎ	べと病 灰色かび病 灰色腐敗病	収穫 7日前 まで	4回 以内	4回以内	6回以内				

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ペンチオピラ ドを含む農薬 の総使用回数	TPN を含む農薬の 総使用回数
ねぎ	べと病 さび病 白絹病 葉枯病 黒斑病 小菌核腐敗病	1000	100～ 300 %/10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (株元灌注は 2 回以内、散布は 2 回以内)	4 回以内 (土壌灌注は 1 回以 内、散布は 3 回以内)
レタス	べと病 菌核病				3 回 以内			
リーフレタス	すそ枯病 灰色かび病			2 回 以内	2 回以内			
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病			収穫前日 まで	4 回 以内		4 回以内	4 回以内
ブロッコリー	菌核病			出蕾前 但し、 収穫 21 日前 まで	2 回 以内		3 回以内	3 回以内 (土壌灌注は 1 回以 内、散布は 2 回以内)

#### 【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ストレプトマイシン剤およびホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれの剤を加えること。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。  
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。